

2024年度
明治大学政治経済学部
グローバル型特別入学試験

総合（日本語）問題

（注意）

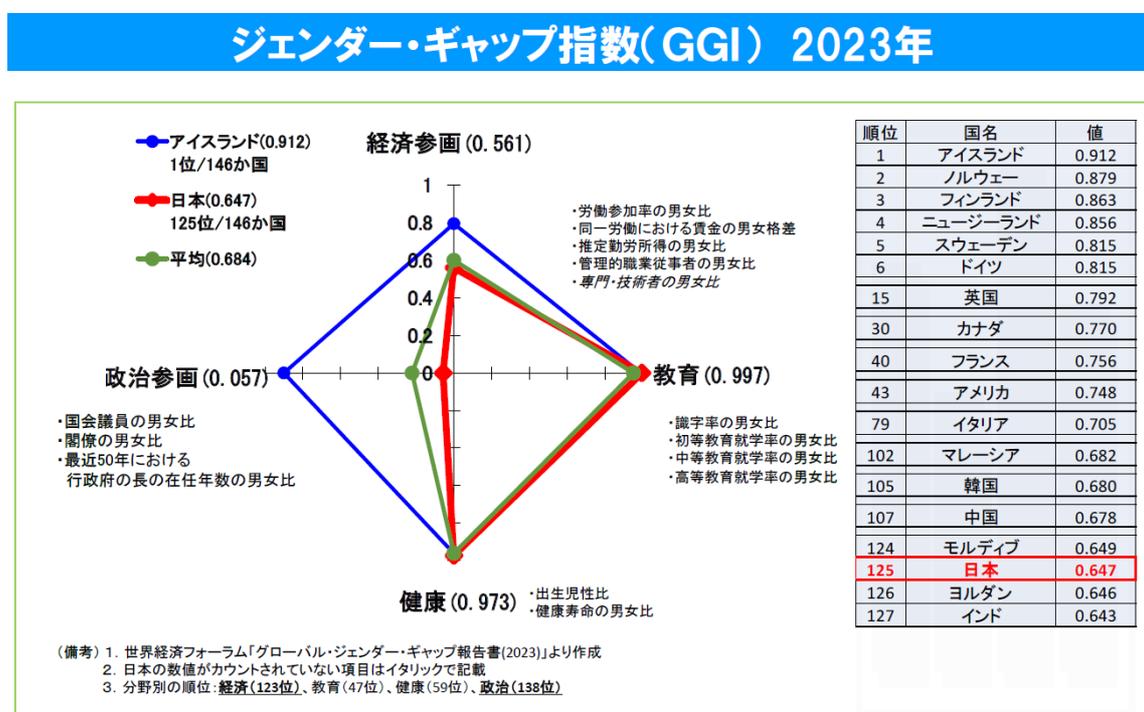
1. 問題は設問1～設問3の3問で、計4ページあります。
2. 解答はすべて別紙「解答用紙」に記入して下さい。
3. 受験学科、氏名を「解答用紙」の所定欄に記入して下さい。
4. 試験時間は90分です。

※ この問題用紙は必ず持ち帰ること。

次の文章を読み、設問 1～3 に答えよ。

2023 年 6 月 20 日、スイスの非営利団体「世界経済フォーラム」が、「ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) 2023」を発表した。図表 1 は、その結果を内閣府男女共同参画局がまとめたものである。数字は、男性に対する女性の割合 (女性の数値/男性の数値) を示しており、0 が完全不平等、1 が完全平等を意味する。これによると、日本の順位は 146 か国中 125 位であった。2021 年と 2022 年の同指数で、日本はそれぞれ 120 位 (156 か国中)、116 位 (146 か国中) で、今年の順位は過去最低だった。

<図表 1>



内閣府男女共同参画局作成 (ただし、図表の一部を改変した)

また、図表 2 は第 49 回衆議院議員総選挙 (2021 年) における主要政党男女別立候補者数、図表 3 は G7 諸国の GGI (2022 年、経済分野) である。

<図表 2>

区分	自由民主党			立憲民主党			公明党			日本維新の会			日本共産党		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
小選挙区	255	22	277	177	37	214	9	0	9	80	14	94	73	32	105
比例代表	277	33	310	195	44	239	40	4	44	82	14	96	19	21	40
候補者数	303	33	336	196	44	240	49	4	53	82	14	96	84	46	130

総務省「令和 3 年 10 月 31 日執行 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査 速報資料：党派別男女別候補者数」(2021 年 10 月 20 日) より作成

<図表 3>

国	総合順位 (順位)	経済分野 (順位)	労働参加率 の男女比	同一労働における 賃金の男女間格差		推定勤労所 得の男女比	管理的職業従 事者の男女比	役員に占める 女性の割合
ドイツ	10位 (0.801)	75位 (0.695)	42位 (0.861)	105位 (0.586)	13.89%	29位 (0.734)	94位 (0.391)	36.00%
フランス	15位 (0.791)	40位 (0.737)	32位 (0.870)	82位 (0.628)	11.82%	26位 (0.752)	60位 (0.551)	45.30%
英国	22位 (0.780)	44位 (0.733)	37位 (0.865)	42位 (0.710)	12.28%	91位 (0.607)	52位 (0.583)	37.80%
カナダ	25位 (0.772)	43位 (0.736)	31位 (0.872)	71位 (0.657)	16.11%	47位 (0.702)	62位 (0.551)	31.90%
アメリカ	27位 (0.769)	22位 (0.778)	53位 (0.831)	11位 (0.772)	17.65%	61位 (0.666)	29位 (0.706)	29.70%
イタリア	63位 (0.720)	110位 (0.603)	99位 (0.693)	114位 (0.567)	7.64%	96位 (0.581)	97位 (0.376)	38.80%
日本	116位 (0.650)	121位 (0.564)	83位 (0.750)	76位 (0.642)	22.52%	100位 (0.566)	130位 (0.152)	12.60%

世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数 2022」より、プラン・インターナショナル・ジャパンが作成（一部改変）

一方、図表 4 のとおり、国連開発計画（UNDP）が「人間開発報告書」で発表している「ジェンダー開発指数（GDI）」では、日本の順位は 172 カ国中 76 位である（2022 年 9 月 8 日発表）。以下はその順位表の一部である。この指標は数値が 1 に近いほど順位が高い、つまり男女の差が小さいことを示している。

<図表 4>

順位	国名	GDI値
1	米国	1.001
1	アルメニア	1.001
1	スリナム	1.001
1	スロベニア	0.999
1	スロバキア	0.999
6	カザフスタン	0.998
6	ベトナム	1.002
8	アルゼンチン	0.997
⋮	⋮	⋮
75	キプロス	0.972
76	日本	0.970
76	イタリア	0.970
76	セントビンセント・グレナディーン	0.970
76	リトアニア	1.030

内閣府男女共同参画局資料より作成

なお、GDI は次の三つの項目についての男女比較をもとに計算されている。①長寿で健康な生活の男女差を測るための「出生時平均余命」、②教育の男女差を測るための「平均期待就学年数」¹と「平均実質就学年数」、③生活水準の男女差を測るための「推定国民総所得」。

次に、同じく「人間開発報告書」が 2022 年 9 月 8 日に発表した「ジェンダー不平等指数 (GII)」を見てみよう (図表 5)。ここでは日本の順位は 170 カ国中 22 位となっている。この指標は数値が 0 に近いほど順位が高い、つまり男女の差が小さいことを示している。

<図表 5>

順位	国名	GII値
1	デンマーク	0.013
2	ノルウェー	0.016
3	スイス	0.018
⋮	⋮	⋮
21	アイルランド	0.074
22	日本	0.083
22	イスラエル	0.083
22	フランス	0.083

内閣府男女共同参画局資料より作成

GII は、次の三つの側面における女性と男性の不平等を示す指標である。①リプロダクティブ・ヘルス (性と生殖に関する健康)、②エンパワーメント (政治参加と教育)、③労働市場への参加。①については「妊産婦死亡率」と「15～19 歳の女性 1000 人あたりの出産数」、②については「女性が立法府の議席に占める割合」と「女性の中等・高等教育の達成度」、③については「女性の就労率」が用いられている。

GGI、GDI、GII の三つの指数は、いずれも男女の不平等を計測するために考案されたものだ。ではなぜこれほどまでに順位が変わるのだろうか。そこには、統計を用いて「男女の不平等」のような総合的な指標を導き出そうとする際の難しさが関係している。

GII が考案される前に国連開発計画が用いていた指標は、GDI とジェンダー・エンパワーメント指数 (GEM) の二つであった。ところがこれらの指標に関してさまざまな疑義が提起され、2010 年に GII が新たに導入されることになった。金沢大学の杉橋やよいによると²、「GDI と GEM で使われた「男女の推定勤労所得」は、1 人当たりの GDP [国内総生産] の絶対的な大きさと非農林業の雇用者賃金の男女間の相対的格差を用いて算出されたので、GDP の絶対的な水準に大きく左右され、その結果、先進国が上位に来ることになった」。また、「経済参加の分野では、雇用者の、しかも専門職や管理職といった高位の職を対象にしたため、農林漁業を無視し「都市のエリート」に偏重した」。

しかし杉橋によると、GII も同様の困難を抱えている。たとえば中等以上の教育達成度

を見るために用いられる学校の「修了率」の数値について、以下のような問題がある。「修了率という水準とその男女間での相対的格差を同時に考慮しているので、修了率の高い国は、男女差があっても、修了率の低い国より、優位に立ってしまう。そもそもリプロダクティブ・ヘルス、中等以上の教育などの分野は、法およびインフラの整備が進んでいる先進国に有利になる傾向があるが、水準の考慮によってこの傾向はますます強くなる」。

こうした、絶対的水準と相対的格差との混合に起因する問題を起こさないようにし、女性が男性より下回ることによって生じる格差のみに注目したのが、冒頭で取り上げたジェンダー・ギャップ指数（GGI）である。

日本では GGI が発表されるたびに毎年ニュースになり、その順位の低さが嘆かれてきた。その一方、それがどのような指標を用いて何を測るために作られたものであるかという点に目が向くことは少ない。だが、データ・サイエンスを学び活用する上で、こうした点への着目は、きわめて重要な事柄ではないだろうか。

1 期待就学年数とは、生涯に正規の教育を受けることが期待される年数で、5 歳児の値が推計される。計測時点での 5 歳以降の各年齢の就学率を加算して求められる。

2 杉橋やよい「国連開発計画が提唱する新しいジェンダー不平等指数—データ加工の落とし穴」『Cutting-Edge』40・41 合併号（2011 年 2 月）

設問 1 日本の GGI 順位が低い理由について、図表 1～3 から読み取れる事柄をもとに説明しなさい。（200 字以内）

設問 2 日本の GGI（125 位、2023 年）、GDI（2022 年、76 位）、GII（2022 年、22 位）順位の違いの理由について、問題文と図表 1～5 をもとに説明しなさい。（300 字以内）

設問 3 男女間の格差以外にも、さまざまな社会的不平等がある。あなたが考える社会的不平等の例を一つ挙げて、それを適切に表すための指標の候補を示しなさい。ただし、なぜその指標が適切なのかの理由を述べること。（指標は数値でもそれ以外でもよく、複数でもよい。）（300 字以内）